

(学年)第1学年、(教科・科目)芸術科・書道

個別学習

(単元)漢字の書 行書の学習

(本時のねらい)

生徒はこれまでの行書の学習で鑑賞の観点を身につけてきた。

米芾の時代背景を知り、書を臨書することで、感性を高め書写能力の向上を図り、表現の基礎的な能力を伸ばす。書道の伝統と文化についての理解を深めさせたい。

(ICT活用方法)

米芾の時代背景を知るため映像資料とプロジェクターを活用する。字を調べる際、従来は書道辞典を用いて索引していたが一人一台端末を使用することで素早く行うことができる。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 5分	・必要な道具の準備をする。	・準備を促す。 ・プリント配布する。	
展開 30分	・プリント・教科書を使って時代背景を知る。 ・紙以外の素材、絹本・木簡・竹簡などで書いていたことを知る。 ・米芾(蜀素帖)を半紙に臨書する。	・米芾の時代背景を説明する。 ・時代によって用具用材が異なることを理解させる。 ・同じ行書でも書き手や時代により書表現が大きく異なることに着目させる。	・米芾の時代背景を知るため映像資料を流す。 ・絹本や木簡などの素材や作品の雰囲気をも一人一台端末を使用し詳しく調べる。 ・書き順や形など分からない文字が出てきた場合、一人一台端末を用いて他の古典を見ながら字の崩し方を調べる。
まとめ 5分	・プリントと作品を提出する。	・プリントと作品を提出させる。	

(授業の様子)



(生徒の反応と課題，改善を要する点)

一人一台端末から調べた文字の方が大きくて見やすいとのことだった。辞書を使うより一人一台端末からすぐに書きたい古典作品が出せる、画像から知りたい事項(木や布の質感など)がよく分かりとても良いと思った。ただし、古典作品の画像の鮮明度など、課題は多くあると思った。